

(様式3)

令和5年度要望課題の傾向と対応

水産業 部門

1 要望課題の検討経過

時 期	内容等
令和4年4月	農林水産技術会議から関係機関に要望課題の提出を依頼
5月	関係機関から要望課題の提出
6月	農林水産技術会議から水産試験場に要望課題の検討依頼
7～10月	各担当において要望課題を検討
10月	農林水産技術会議水産業専門分科会で検討
令和5年1月	農林水産技術会議へ回答
3月	水産試験場外部評価委員会にて、令和4年度試験研究課題設定について意見聴取予定

2 令和5年度要望課題の傾向及び課題化の視点

要望課題数は32課題となり前年度より3課題減少した。

機関別課題数では、農林水産事務所からの要望が12課題であった。水産関係団体の要望機関は、愛知県漁業協同組合連合会(14課題)を始めに、愛知県内水面漁業協同組合連合会(1課題)、愛知県淡水養殖漁業協同組合(1課題)、弥富金魚漁業協同組合(2課題)、公益財団法人愛知県水産業振興基金(1課題)、愛知県養鰻漁業者協会(1課題)の6機関であった。

内容は、基本計画2025の3本柱のうち「豊かな水産資源を育む漁場環境の創造」に関する要望が10課題、「気候変動等の環境変化に対応した水産資源の持続的利用」に関する要望が6課題、「地域の特性を生かした増養殖の推進」に関する要望が18課題あった。これらの中、栄養塩管理運転など漁場環境に関する要望が7課題、水産資源の管理など水産資源に関する要望が4課題、アサリ、ノリ、ワカメなどの海面増養殖に関する要望が16課題、ウナギ、アユ、マス類、キンギョ等の内水面漁業に関する要望が5課題であった。

これらのうち32課題の要望について応えていくこととし、2課題は「新規」、30課題は「継続」により課題設定した。

(部門全体でA4 1枚にまとめてください)